

【成果報告】

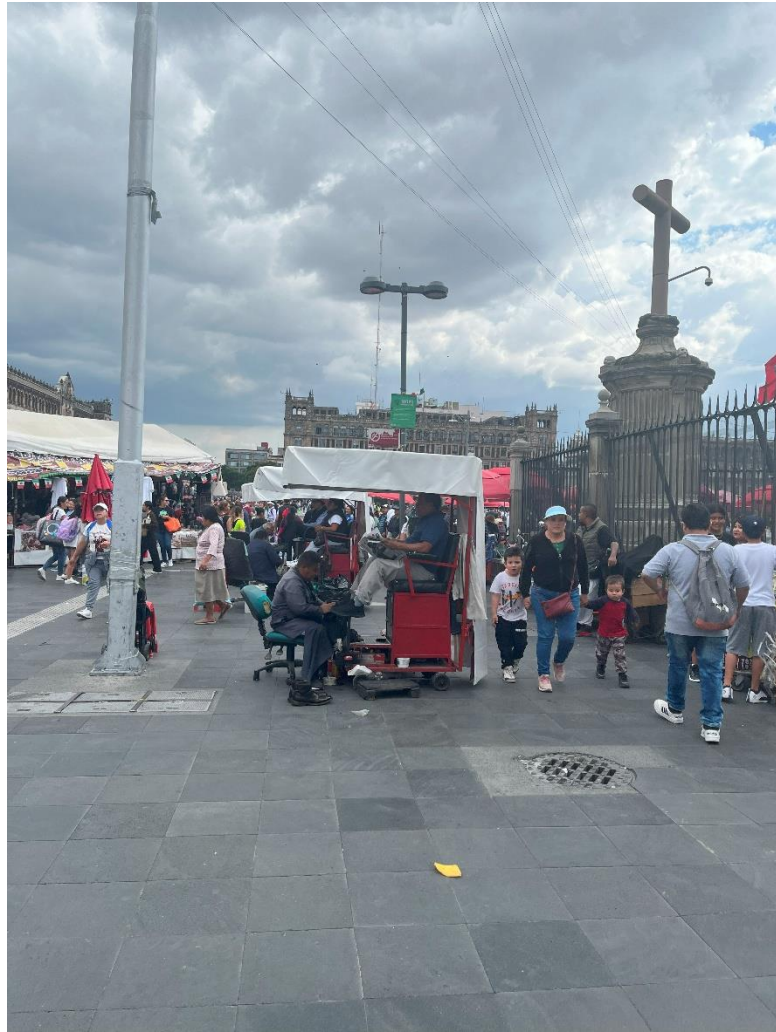
本助成による成果としては、①現地調査及び国内・海外の専門家との研究交流、②研究報告、を通じて研究を進展させた。

現地調査及び国内・海外の専門家との研究交流では、2024 年度には、メキシコとタイの両方で現地調査・ヒアリング調査・研究交流ができた。

まず、2024 年 8 月後半にメキシコに出張した。母校であるメキシコ大学院大学(El Colegio de México) 経済学研究科の 60 周年記念イベントにおいては、メキシコの格差についての大家である Nora Lustig (Tulane University)と Luis F. López-Calva (The World Bank) の貴重な講演を聞くことができた。また、大学院生時代の同期である Raymundo M. Campos-Vazquez (El Colegio de México) や Roberto Vélez Grajales (Centro de Estudios Espinosa Yglesias) もメキシコの格差及び社会階層の硬直性を中心に研究をしており、貴重な研究交流を持つことができた。今回の出張では、首都メキシコ・シティだけでなく、自動車産業を中心に日系企業が進出している中部高原地域(バヒオ)のケレタロ州を訪問し、ヒアリング調査を行った。ケレタロ州は、外務省の海外安全ホームページではメキシコ内で最も治安の良い州の 1 つであるが、ヒアリング調査によると、それでも麻薬組織の影響があり、特に自動車メーカーが立地するグアナフアト州と結ぶ 45 号線において最近では昼さえ強盗事件が頻発しているとのことであった。メキシコの治安問題は、海外直接投資(FDI)を呼び込む上で重要な問題であり、地域格差とも関わってくる。出張時に不確定要素であった第二次トランプ政権発足が現実のものとなり、米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)の再交渉が行われる予定である。メキシコの貿易や FDI、雇用、ひいては格差に影響を及ぼすことが予想される。2024 年 10 月に大統領に就任した Claudia Sheinbaum は初の女性大統領として世界から注目を浴びているが、これらの問題にどのように取り組むかが注目される。

次に、2025 年 3 月初旬にタイに出張し、現地調査・ヒアリング調査を行った。留学経験のあるメキシコよりも現時点ではタイにおける研究ネットワークは少ないが、今回の出張により少しずつではあるが研究ネットワークが拡張しはじめ、大変有意義であった。タイはバンコク一極集中であり、今回の出張では諸々の制約によりバンコクとアユタヤ周辺しか訪問できなかったため、今回は地方都市の工業団地や大学も訪問したいと考えている。

研究報告としては、2025 年 1 月に神戸大学で開催された濱口伸明先生還暦記念研究集会において、「タイとメキシコにおける国内格差：多面的な比較研究 No.1」と題する研究報告を行った。本報告では、様々な代表的な指標を用いて、タイとメキシコの国内格差を明らかにした。①メキシコの格差指標について、既存研究のコンセンサスと異なる傾向が見られたこと、②代表的な指標では、メキシコの方がタイよりも国内格差が大きいこと、③ただし、タイでは相続税がないに等しいとも言える制度であるため富の格差が非常に大きいこと、等が明らかになった。また、議論の中で、今後研究を進める上で、標準化されたジニ係数が鍵となることが判明した。



日本ではあまり見られなくなった靴磨きの写真（メキシコシティのインフォーマル経済）